

剣道

No. 154

8・9月号

三木市剣道連盟
広報部
2011(平成23)年
10月4日(月)
発行

- 第58回東播八市親善剣道大会(1・2面)
 - 第47回長野旗争奪剣道優勝大会(3面)
 - 指導者研修会(4面)
 - 池田公律先生の八段昇段を祝す(5面)
 - 三木市中学校新人戦の結果(6面)
 - 櫻田先生ご逝去(6面)
 - 月々の便り(6面)
- ◎本紙は、三木市剣道連盟ホームページ上
(<http://mikikenren2011.web.fc2.com/>)でもご覧になれます。PDFでカラー印刷できます。

三木市チーム悲願の初優勝成らず

第58回東播八市親善剣道大会

8月21日(日) 於 三木市吉川総合公園文化体育館

明石市のリベンジ執念に屈す

毎年8月末に東播磨地区八市が会場持ち回りで行っている「東播八市親善剣道大会」が、今年には三木市主管で開催され、三木市内で唯一観覧席を有する三木市吉川総合公園文化体育館を会場にして、東播八市16チームが熱戦を繰り広げた。

我が三木市剣道連盟は、当番市の連盟として、大会の世話に当たり、近藤事務局長を中心に一年前から着々と準備大会前日も全会員、補助員の高校生、少年剣道教室の保護者らが会場づくりをし、入念に準備した。

大会当日の8月21日は生憎の雨だった。選手・監督162名(個人戦57名、団体戦105名)、審判団・大会役員、試合補助員ら138名、観客らを入れると総勢400名の大会だった。



第58回大会 開会式の様子

試合に先立って、合同稽古があり、全選手並びに審判団が防具を付け、一汗かいた。



見事な形を披露する楡皮隆夫(左)、小椋治朗(右)両氏

道形」を三木市剣道連盟の会員、打太刀、教士七段小椋治朗、仕太刀、教士七段楡皮隆夫両氏が

後、10時30分から開会式が行われ、大会会長の三木市剣道連盟会長高橋洋二が挨拶、続いて大会名誉会長の三木市長の代理として松本明紀教育長が歓迎の挨拶、続いて安居圭一三木市議会議長、三串美智也三木警察署長らが祝辞を述べた。選手宣誓は三木市チームの松本克基主将が行った。

次いで演武に移り、「日本剣

披露した。息の合った見事な形で、会場から大きな拍手が起った。

個人戦

山口直輝三位、江村直子、前川洋子準優勝

試合は先ず、個人戦が四試合場で展開され、男子の部、

女子三段以下の部、女子四段以上の部の三部門で戦われた。三木勢は、男子の部で若武者山口直輝が三位に、女子二段



男子個人の部で見事3位に入賞した山口直樹(右端)

以下の部で江村直子が準優勝女子四段以上の部で前川洋子



女子個人3段以下、準優勝江村直子(上)、4段以上、準優勝前川洋子(下)

がこれまた準優勝で、結果を残した。

団体戦A・Bチーム

善戦するも、予選

リーグで敗退

団体戦は昼を挟んで四試合場で一斉に開始された。三木市チームは、会場市として三チームの出場が許された。第一試合場のAチームは、加西市B、西脇市Aをそれぞれ3-0、4-0で一蹴したが、昨年のリベンジに燃える明石市Aの粘りに手こずり、2-2の

代表戦に持ち込まれた。代表選に屈して予選リーグ脱出は成らなかつた。

第二試合場では、Bチームが加東市Bに勝つたものの二敗し、第三試合場でもCチームが三敗して、これまた決勝トーナメントに出場できなかった。

決勝トーナメント戦では、明石市の執念も二連覇を目指す高砂市の勢いに通じずA・Bとも敗れ、高砂市Aチームが昨年度に引き続き優勝した。なお、各市チームから一名選ばれる「優秀選手賞」には、三木市からは松本克基選手が選ばれた。

大会成績は以下の通り。

【個人戦 男子の部】

- 優勝 田代 智也(小野)
- 準優勝 秋山 優輔(明石)
- 三位 山口 直輝(三木)
- 三位 松井 優治(明石)

【個人戦 女子三段以下の部】

- 優勝 下倉 菜月(加古川)

- 準優勝 江村 直子(三木)
- 三位 秦 絢子(明石)
- 三位 古好 未来(加古川)

【個人戦女子 四段以上の部】

- 優勝 瀧 裕子(高砂)
- 準優勝 前川 洋子(三木)
- 三位 荒木 知子(加古川)
- 三位 金川 佑衣子(高砂)

【団体戦】

- 優勝 高砂市 A
- 準優勝 明石市 B
- 三位 明石市 A
- 三位 西脇市 B

【優秀選手賞】

- 藪本 駿(西脇市)
- 片岡祐輔(加東市)
- 八木啓介(高砂市)
- 大西康文(加西市)
- 田中 剛(加古川市)
- 辰巳喜洋(小野市)
- 部矢拓志(明石市)
- 松本克基(三木市)

厚かったグローリーの壁

三木チーム上位進出ならず

第47回長野旗争奪剣道優勝大会(於 姫路 県立武道館)

本番「東播八市親善剣道大会」を2週間後に控えて、8月7日(日)、昨年に引き続き、「第47回長野旗争奪剣道優勝大会」に、我が三木市剣道連盟チームは、A・B2チームを、それぞれ「三木市剣道連盟」「三木中央」と名乗って出場した。

昨年は初出場ながら、いきなりベスト8、今年はそれ以上を収めて波に乗り、東播8市大会につなげようと、安栖総監督は意気込む。

午前7時20分、市文化会館前に集合した選手団は、4台の車に分乗、一路会場の姫路市に向かう。

会場は、姫路市手柄の兵庫県立武道館。今年は少年団体61チーム、成人一般の部は44チームが参加、大きな大会だ。

今年の大会の特徴は、大会スローガンとして「がんばろう!日本」を掲げ、3月11日に東北地方を襲った未曾有の大震災の犠牲者を悼み、被災者と連帯する。

開会式では、大会会長牧野圭輔氏が挨拶の中で、その点に触れた47回目を迎える今年、少年の部の優勝旗が新調され寄贈者の廣

栄武道具社長廣野美次氏が披露した。

試合に先だって公開演技として、姫路に伝わる貫心流剣術の形無双直伝英信流、全日本剣道連盟制定居合の居合が演武された。さて、試合である。三木市からは少年の部に出場したチームはなく、第5〜8試合場で行われた一般の部に、東播各地のチームに混じって2チームが出場した。



責任感を体いっぱいみなぎらせる
松本キャプテン(左)

第7試合場で、第3試合として「剣心会喜楽」と緒戦を戦ったAチームこと「三木市剣道連盟」チームは、先鋒渡辺引き分けのあと残りがすべて2本勝ちし、4-0で幸先のよいスタート。

しかし、続く2回戦では、強敵「グローリー姫路」と当たり先鋒・次鋒引き分けのあと、中堅小林が1本勝ちしたものの、副将松本大将上田の両ベテランが、若い相手にまさかの不覚、1-2の僅差で早くも姿を消した。

一方、Bチームこと、「三木中央」チームは、第6試合場。2回戦からの出場で、「姫路武道館」と対戦。先鋒1本負けの後、次鋒山口、初陣ながらよく健闘し、引き分け。後の3人(木村・片田・木下)が勝ち、3-1で快勝。しかし、次がいけなかった。3回戦はグローリー姫路以上の「グローリー本社」チーム。先鋒栗田はメンの1本負け。次鋒・中堅と引き分け食い下がり、副将・大将に期待がかかったが、さすが姫路の名門グローリー城の守りは堅く鉄壁の陣、2連敗して0-3の完敗だった。

かくして、東播8市大会へのはずみとすべき前哨戦は、不発に終わったが気分を引き締める機会にならなかったかもしれない。



示範出来ざる者、教ふる資格無し

剣道指導者研修会で鈴木範士

9月4日(日) 於 三木コミュニティスポーツセンター

台風12号が各地で猛威をふるい、死者行方不明者併せて百名を超すという悪天候の中、しかも、三木地区にも大雨警報発令中にもかかわらず、我が会員の熱意に応えて、9月4日(日)鈴木康功先生が、防具を担いで三木にきてくださった。

毎年一回(財)三木市スポーツ振興基金指導者育成事業として行われてきた、この「剣道指導者研修会」、今年で何回目になるのだろうか。安栖成人指導部長の懇請によつて、昨年に引き続き、今年も、剣道範士八段鈴木康功先生がきてくださることになった。全剣連の要請で全国はもとより外国にまで指導の足を延ばされる先生は、超過密スケジュールの日々で、日程をあけてもらうのさえ、一苦勞なのだ。警報発令中とあつて、高校生は不参加で始まった研修会は、定刻の10時間講式。松本明紀教育長が駆け付け挨拶をされた。

午前中は、講義と形、午後は昇段模擬審査、実技指導、合同稽古がその内容だった。高校生の姿なく、

一般会員のみ約40数名、一寸さびしかったが、県警剣道師範伊藤明裕先生、八段に合格されたばかりの三木市剣道連盟指導顧問池田公律先生が助手を勤められるという豪華指導陣だった。



熱心に指導される鈴木康功範士八段

最初の講義は短い時間だったが、示唆に富む、中身の濃いものであった。その内容をメモ風に列挙してみると、「剣道上達の秘訣」↓基本の上に立った稽古以外にない。良き指導者に仕えること。(先生自身は森島健男―東京警視庁師範に師事) 3つのサイクル「習う」↓「練る」

↓「工夫する」

「修業中の3段階の目標」

初級者(二段ぐらいまで) 試合はしなくてもよい。基本を大切に。みつちり稽古。中級者(四段〜六段ぐらいまで) 血のにじむような猛稽古。上級者(七段以上) 心の剣道気はずつと攻めていて、相手を引き出す。相打ちの勝ち。攻撃型の剣道。捌きをする。避けない。下がない。「その他稽古の心得」常に真剣勝負の気持ちで。↓初太刀を大切に。下がない剣道を。↓綱引き剣道はダメ。一足一刀の間合いより、①我慢する。②雑念を捨てて。③無になる↓心妙剣に至る。「見事な打ちをするには」①集中力を切らさず、感動させる剣道を。②切れ目のない剣道を。③無心の攻め。④体勢が崩れないこと。⑤反則をしない。

「指導者に望むこと」①基本を身につけておくこと。②示範できるように。③褒めて生徒の心に火を付ける。④自身切り返し、打ち込み稽古を欠かさぬこと。

講義の後、「日本剣道形」の時間は少なかつたので、小太刀の形3本までには至らなかつた。

昼食をはさんで、準備体操の後、普段は何気なくやっている素振り

について、ポイントをついた注意があつた。その後、最初に昇段審査のための模擬審査があり、各段の実技を終えた受審予定者にそれぞれ鈴木、池田両先生からアドバイスは稽古の目標が明確になり、ありがたい機会であつたようだ。

休憩後、全受講者は防具を付け、鈴木先生云うところの基本稽古(切り返し、追ひこみ、打ち込み)があつた。

日ごろ仕事が忙しくて、せいぜい週3回の稽古がやっとの会員諸氏は、その稽古に付いて行くのがやつとの有り様であつた。それに比べて70歳の鈴木先生が講義中の言葉通り、自ら示範して見せられたところが、さすが専門家だと感心した。残り4分になって、合同稽古となり、主に3先生を元立ちに稽古をお願いした。稽古を受けていただくことが出来た会員は満足そうだった。終了は4時。

終了後、おなじみの「つぼ八」で鈴木先生を囲んで懇親会が開かれ、会員20数名も参加して大いに盛り上がった。稽古の場だけではなく、鈴木先生のお人柄に親しく接することができ、先生のファンが増えた。

三木市剣道連盟 指導顧問

まさのり

池田公律先生の八段合格を祝す

9月11日(日) 於ホテルオークラ神戸

剣道を修業する者にとって、最大の難関、剣道八段審査において、我が三木市剣道連盟指導顧問池田公律先生(三木北高校剣道部顧問)が、見事合格され、その昇段祝賀会が、神戸のホテルオークラで、9月11日(日)にあった。

我が三木市剣道連盟からは高橋会長、小紫名誉会長ら幹部会員九名が、代表として駆けつけ、百七十名の剣道関係者と共に祝福した。



池田公律新八段夫妻(中央)と祝賀会に出席した三木市剣道連盟の会員

池田先生は、この5月に行われた京都での昇段試験で見事合格されたもので、兵庫県でも4年ぶり、出身の東京教育大学体育学部武道学科出身者の中でも久しぶりの合格者であったらしい。それだけに本人はもとよ

り、兵庫県剣道連盟の師範方、学校剣道連盟の仲間、教え子たちの喜びもひとしおで、この日も東京から全日本剣道連盟専務理事で池田先生の大学の先輩でもある福本修二範士、同級生の永作誠一郎氏、全剣連の真砂威先生らが、大勢の剣友たちに混じってお祝いに來られた。

今回の祝賀会は、先生が副会長を勤められる兵庫県学校剣道連盟が主催し、県内の主だった高段者の先生方がこぞって顔を揃えられた。というのも、池田先生が高校教諭として一貫して現場で生徒を指導されてきたと同時に、昭和63年全国高校総体(於赤穂)、平成18年兵庫国体(剣道は赤穂で)運営の実質上の責任者として多くの県警の師範方、中・高・大の学校剣道指導者、社会人剣道指導者らと幅広い協力・信頼関係を築いてこられたからである。

会は午後6時から始まり、池田先生ご夫妻が揃って入場されると、大きな拍手が取り巻いた。司会は中川一穂先生。開会の挨拶、代表発起人、学校剣道連盟会長、兵庫剣連副会長河野修一郎氏に続いて、宮崎昭兵庫県剣道連盟会長、福本修二全剣連専務理事らが祝辞を述べられた。特に福本先生は、池田先生の大学時代か

らの付き合いであり、長らく池田先生の精進・活躍を見守ってこられた方だけに、その一言一言にまごころがこもつていて、参会者に大きな感動を与えていた。記念品贈呈は川本三千弘範士、乾杯の音頭は鈴木康功範士、いずれも三木剣連にはおなじみの先生だ。両先生は、赤穂での国体で日本剣道形を演武された。

謝辞に立った池田先生は、「本日は私の八段昇段祝賀会にご出席を賜り、また記念品まで頂戴し、誠に有難うございました。これも偏に諸先生、諸先輩、剣友の皆さまのお陰と感謝しております。今後は真の八段位に相応しい『事理一致の剣道』を目指し精進するとともに、私を『こま』で育てていただきました剣道兵庫に少しでも恩返しをするべく、鋭意努力する覚悟ですので、何卒倍旧のご指導ご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。」と述べられ、先輩福本範士からのアドバイス、八段になった者の心構え、教訓二つを必ず守ると、参会者の前で誓われた。

なお、池田先生は、9月24日に行われた「全日本女子剣道選手権大会」の担当専務理事としても活躍された。

自由が丘中学校が競り勝つ

―三木市中学校新人体育大会剣道の部―

台風一過、めつきり秋らしくなつた9月24日(土)、市内各中学校を会場に、平成23年度第46回三木市中学校新人体育大会が行われ、剣道の部は、三木中学校を会場に実施された。

参加したのは、剣道部のある三木・自由が丘の2中学校で、全部員出場の個人戦、それに代表選手5名で争う団体戦が行われた。

開会式は9時から。三木市剣道連盟の会員10数名も審判団として参加した。審判長は昨年引き続き、森下哲次副会長(錬士7段)。

個人戦は4〜5名が1グループを構成するリーグ戦総当たりで、上位2名が決勝トーナメント戦に出場できる。

個人戦の結果は以下の通り。

- 優 勝 低田 健(自由中)
- 準優勝 亀園 大輝(自由中)
- 3 位 小紫 貴史(三木中)
- 3 位 樋口 諒(自由中)

なお、女子は内村友美(自由中)が優勝した。

団体戦では三木・自由双方譲らず、2―2で大将戦にもつれ込んだが、個人優勝した自由が丘の低田主将が群を抜く強さを見せ、チームに優勝をもたらした。

試合後、審判団として参加した連盟会員が元立ちに立ち、短時間ながら参加者全員が稽古に汗を流した。

秋らしい爽やかな一日だった。

【訃報】



三木市剣道連盟参与 櫻田勝巳先生ご逝去

三木市剣道連盟参与で元自由が丘少年剣道教室指導者の櫻田勝巳氏が去る9月27日、ご逝去されました。(享年満82歳)

氏は、昭和56年、自由が丘少年剣道教室開設当初より、故服部巳代基氏(三木市剣道連盟参与)をはじめめとして、地域の指導者とともに、主に自由が丘公民館で熱心に少年少女剣士の指導に専念されました。また長年にわたり、三木市剣道連盟幹事としてさまざまな事業の企画運営にあたられるなど、三木市剣道の普及発展に貢献されました。ここに三木市剣道連盟一同、衷心よりご冥福をお祈り致しますとともに、謹んで哀悼の意を表します。

月々の便り

丹野貴平(こっぺい)

菊月流雲

炎暑終はりて 秋彼岸
 天地狭く 千草満つ
 炎暑終はりて 秋彼岸
 屋根一面に 干し蒲団
 炎暑終はりて 秋彼岸
 父の蔵書の 忘れ葉
 炎暑終はりて 秋彼岸
 待つ弟に 土産なく

炎暑終はりて 秋彼岸
墓参の母の やつれ髪

